

第4号様式（第10条関係）

会 議 録 （要 旨）

会 議 名	第3回武蔵村山市市民協働推進会議
開 催 日 時	平成28年9月29日（木）午後6時30分～9時
開 催 場 所	中部地区会館401大集会室
出 席 者 及 び 欠 席 者	出席者：渡辺龍也、北口良夫、清野智美、比留間多一、瀬口圭志 本間由美子、高尾典之、比留間毅浩 欠席者：高橋誠、前田啓子 傍聴者：1名 （事務局）協働推進課長、協働推進課主査、協働推進課主事
報 告 事 項	平成28年度武蔵村山市協働事業提案制度実施事業中間報告会について
中 間 報 告 会	平成28年度武蔵村山市協働事業提案制度実施事業中間報告会
議 題	平成28年度協働事業提案制度提案書類について
結 論 （決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。）	中間報告会 平成28年度協働事業実施団体（5団体）による中間報告会を行った。 議題 平成28年度協働事業提案制度提案書類について 平成28年度に提案があった3事業について書類を確認し、意見交換を行った。 その他 次回以降の会議の開催日程について 第4回会議は11月1日（火）、第5回会議は11月8日（火）に開催する。時間はいずれも午後7時からとし、場所については事務局から改めて通知する。
審 議 経 過 （主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。） （発信者） □印：座 長 ○印：委 員 ●印：提案団体 △印：市担当課 ▲印：事務局	平成28年度武蔵村山市協働事業提案制度実施事業中間報告会 団体名：武士団・村山党の会 事業名：中世・村山郷を中心に活躍した「武蔵武士団・村山党」を活かした地域おこし第2弾 市担当課：産業観光課 観光グループ -実施団体・市担当課による中間報告- 質疑応答 ○ 予算の執行状況は。 ● 概ね順調であるが、団体予算の持ち出しがある。 □ 団体予算の持ち出しがあるのは悪いことではない。自立した事業運営に繋がるものでもある。 ○ 甲冑は何領作成しているのか。 ● 昨年度は15領作成し、今年度は10領作成している。甲冑の精度も向上している。

- 事業の広報は市担当課が行っているのか。
- ▲ 市報への掲載やフェイスブック等への投稿により広報している。
- 団体はフェイスブックを活用していないのか。
- 今後活用したい。

団体名：むさし村山ストリートダンス協会
 事業名：ムラッパーの武蔵村山市PR作戦
 市担当課：産業観光課 観光グループ

-実施団体・市担当課による中間報告-

質疑応答

- 市公認キャラクターになる予定はないのか。
- 行政の公認キャラクターになると、物品を作成する際の許可が複雑になるなど、迅速に動くことができなくなる。ある程度自由に活動したいので、公認キャラクターになることは考えていない。
- 他に市公認のキャラクターができたらどうするのか。
- 一緒に活動できたら良い。我々の目的はキャラクターの知名度向上ではなく、PR活動を通じて武蔵村山市の知名度を向上させることである。目的が同じであるなら、共に活動出来たら良いと考える。
- ムラッパーに地元企業の名前を入れるなどして広告収入を得ることはできないのか。
- 今後検討する。
- 市担当課に対する要望等はないのか。
- ゆるキャラグランプリの投票について、全庁的に呼びかけるなどの協力をお願いしたい。また、市からの要請により出演するイベントについては、出演料をいただくとありがたい。インストラクター等に依頼して出演していただく場合もあるので、団体の自己財源だけでは苦しい部分もある。

団体名：グラシオスプラントパートナー
 事業名：武蔵村山市を花と緑であふれる素敵なまちにして癒しの景観を創る
 市担当課：環境課 公園緑地グループ

-実施団体・市担当課による中間報告-

質疑応答

- 商工会との連携が難しいとの話があったが、商工会に加盟している商店だけでなく、市内事業所と連携してはどうか。
- 商工会女性部などと連携できたらと考えている。
- 以前は小学生向け、現在は市民全般向けに事業を実施している。高齢者や自治会など、対象を絞って実施するのも良いのではないかと。
- 今後検討したい。
- 植栽した箇所の水やりを行っているとの話があったが、市役所周辺の植栽場所についても行っているのか。

- 当番を決め、週に一度水やりを行っている。
- 協働事業なのだから、市担当課に任せても良いのではないか。
- 市役所周辺の場所は総務契約課が所管しているため、水やりは総務契約課の職員にやっていただいている。総務契約課は協働相手の課ではないので、全てをお願いするのは適切ではないと考え、我々も週に一度行っている。

団体名：いつひよファミリー with 石田倫依
 事業名：ひろげよう！子育て支援の輪プロジェクト
 市担当課：子ども育成課 児童館グループ

-実施団体・市担当課による中間報告-

質疑応答

- 安全確保のためにどのような取組をしているのか。
- マットを購入し、フローリングになっている床に敷くことで、乳幼児でも安心して遊べる環境の整備を行った。また、発達障害を持った子どもがいる場合は人員を増やし、従来は4人で対応しているところを6人で対応するなどした。
- 現在の状況で、事故等が起きた場合はどのように対応するのか。
- 市が加入している施設の保険があるほか、団体としても賠償責任保険に加入している。
- 目標に対し、どの程度の結果が出ているか。
- 参加者同士でのサークルが立ち上がるなど、コミュニティ形成が進んでおり、孤独になりやすい保護者の仲間づくりができています。また、どの事業においても笑顔が多く見られ、アンケートの結果からも参加者の好評が伺える。

団体名：特定非営利活動法人 こども科学教育振興協会
 事業名：みんなの科学教室
 市担当課：教育指導課 指導グループ

-実施団体・市担当課による中間報告-

質疑応答

- この事業の達成目標をどのように考えているか。
- 理科への触れ合いを通じたコミュニケーション能力の向上や、子どもたちの健全育成である。子どもたちの評判や反響は、アンケートにより確認している。
- 市民向け講座の定員数と参加者数は。
- 200名を定員にしており、ほぼ想定通りの参加者数であった。
- 協働事業終了後も活動を継続できるように、学校や先生への意識啓発も必要である。
- 学校の負担や先生へのプレッシャーにならない範囲で行いたいと考えている。

議題 平成28年度協働事業提案制度提案書類について

プレゼンテーションに向け、各団体への疑問や問題点を抽出する。

(「中世・村山郷を中心に活躍した「武蔵武士団・村山党」を活かした地域おこし第3弾」について)

○ 協働事業終了後は予算額が大幅に下がっているのに事業スケジュールはほとんど同じである。

▲ 協働事業では講演会という名称で行っていた事業が、学習会という名称になっている。講師謝礼を計上せず、講演会ではなく学習会という形で実施するのではないか。

○ 協働事業の3年間で必要な甲冑を作成し、協働事業終了後は甲冑の作成よりも啓発活動をメインに活動するのではないか。

(「ムラッパーの武蔵村山市PR作戦」について)

○ 当初はゆるキャラグランプリで100位以内に入ることを目標に掲げていたが、今年度の企画書には書いていない。

○ SNSによる情報発信によって、どれくらいの成果がでているのだろうか。

無料グッズの作成費が高額である。グッズを数多く作成して配布すれば知名度が向上するというものでもない。グッズを配布した効果が出ているのか確認したい。

○ 将来的にはご当地キャラ大イベントを開催したいとあるが、市担当課としてはどう考えているのだろうか。

(「みんなの科学教室」について)

○ 協働事業終了後は他の補助金を活用して可能な限り事業を継続したいとあるが、協働事業の実施期間中に自己財源の確保に努めることも団体の責任である。補助金ありきの事業運営は良くない。

人件費の割合が非常に高い。補助金額が徐々に下がるのに合わせて、人数を減らすことで人件費を調整しているが、そのような安易なやり方は良くない。

その他

▲ 第4回会議は11月1日(火)、第5回会議は11月8日(火)に開催する。時間はいずれも午後7時からとし、場所については事務局から改めて通知する。

